

「胃の粘膜下層剥離術における局所吸収止血剤使用の後ろ向き研究」について

1. 研究の対象

2022年4月1日から2024年7月31日までに早期胃癌ESDが行われた患者さん

2. 研究目的・方法

胃ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)は胃癌に対する治療として保険収載され、広く行われている手技です。ESDの合併症で最も多いものとして術後出血があり、5%程度で起こると報告されています。特に透析を行っている患者さんや血液を固まりにくくする抗凝固薬を内服している患者さんでは術後出血が20-30%で起こるとの報告もあり、合併症の管理が重要となっています。局所吸収止血剤を使用することにより潰瘍修復の改善の報告があるため、今回当院で早期胃癌にESDを実施した患者さんの過去の情報を用いて局所止血剤の有無による合併症の検討・解析を行います。本研究の結果により、早期胃癌ESDによる局所止血剤の再出血予防が期待できます。

研究期間は、病院長許可日から2025年6月1日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者背景:性別、年齢 抗血小板内服の有無、背景疾患、
- ・画像検査:病変の位置・
- ・早期胃癌ESD後 合併症、再出血の日数、入院日数 輸血の有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

磐田市立総合病院 消化器内科 丹羽智之

〒438-8550 磐田市大久保 512-3 0538-38-5000

研究責任者：

磐田市立総合病院 消化器内科 丹羽智之